

「牧 場」(まきば)

この牧場がどこであるのか不明、信州？甲州？ 晩夏の午後から夕方にかけての情景。
戦時中でも、まだ日本の敗色が濃くなっていない時期の作か、まだのんびりしたおおらかな気分が感じられる。
放牧されている牛の変わらぬ日々。これも普遍がテーマか。

※解説から：6曲の組曲の終曲前の5番目に置かれているが、「間奏曲的な色合いで演奏したい。」とある。

例) 間奏曲 (カルメン、アルルの女、カヴァレリア・ルスティカーナなどが有名です)

山の牧場の青草に

あまたの牛をはなちけり。

あまたの牛はひろびろと

空の真下に散りにけり。

夏もおわるか、白雲の

きょうも峠をこえて行く。

立ち臥す牛ら眼を上げて、

雲の行衛をながめけり。

山の牧場に風立ちて、

夕日の光ながれけり。

風に送られ、日を浴びて

牛は牧場をくだりけり。

あまた (数多) : 数多い たくさん

♪主旋律の推移 1~8 小節 セカンドテナー

↓

9~16 小節 トップテナー

↓

17~24 小節 ベース

上記以外で歌詞がついている部分は副旋律。

さらに「Oo」の部分はもっと裏方に徹する。

軽く薄い声で！

副旋律も Oo も決して主旋律より前に出ないでほしい。

♪全体を通じてテンポの変化、大胆な強弱もない半ば
淡々とした表現で平凡な一日を表したいと思います。



※準備が出来ていれば・・・

・歌劇「カルメン」

2幕前「アルカラの竜騎兵」

3幕前 フルートソロ

4幕前「アラゴネーズ」

・組曲「アルルの女」

第2曲間奏曲 別名 Agnus Dei

・歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」

1幕物のオペラ。時間的な経過を間奏曲で表す

♪普通、間奏曲はオペラの間中部や幕の間に挿入されるが、「牧場」を間奏曲として位置づけた時、第3曲「春愁」や第4曲「天上沢」付近に持ってこず、最終曲「かけす」の前に置いたことの答えは？

例) 第6曲「かけす」は第1曲から第4曲の4曲分の価値を持たせると。「天上沢」の季節～

「かけす」の季節 時間的な経過はある。

さてどう演奏する。